

## 平成27年度第1回伊勢地区地域審議会会議概要

- 1 開催日時 平成28年1月21日(木)午後7時00時～午後8時35分
- 2 開催場所 伊勢市役所東庁舎4-3会議室
- 3 議事内容 (1) 委員の変更について  
(2) 地域審議会の設置期間の延長について  
(3) 市町村合併の検証報告について  
(4) その他
- 4 出席委員 中村基記委員、櫻井治男委員、森本幸生委員、村田典子委員、  
山中一孝委員、杉田英男委員、永井尚子委員、馬瀬清美委員、  
竜田和代委員、佐久間泰子委員、岡本忠佳委員、小久保吉久委員、  
埜崎蓮香委員、野村誠一委員
- 5 欠席委員 前田政吉委員、北村和也委員、中居登巳男委員、山川一子委員、  
浦田宗昭委員
- 6 出席職員 情報戦略局長、企画調整課長、企画調整係長、同主事  
市民交流課長
- 7 議事概要
  - (1) 委員の変更について  
(企画調整課による説明)
    - ・伊勢市PTA連合会 廣氏から永井氏に変更
  - (2) 地域審議会の設置期間の延長について  
(市民交流課による説明)
    - ・新市建設計画の期間の延長を受け、地域審議会の設置期間も協議の結果、延長することとなった(～平成33年3月31日)。
    - ・第6期(平成28年4月1日～)の地域審議会の公募委員の募集も2/1広報に掲載。
  - (3) 市町村合併の検証報告について  
(企画調整課による説明)
    - ・今年度で合併より10年の節目を迎えたことから、客観的な実態及びアンケート調査から読み取れる市民の実感を確認、集約し、「合併により目指していたものが実現できたか」「合併により心配されていた課題が解決されているか」という2つの視点から考察しました。【資料 市町村合併の検証(案)をもとに説明】

(委員による質問・意見)

    - ・全ての地区でまちづくり協議会ができたのか、各地区への助成はどのような形か  
⇒全ての地区ででき、現在は各地区一律の助成です。

- ・アンケートの回答の年齢増は高齢者が多いことから必然的に「高齢社会に対応したまちづくり」が高い割合になるのでは。若い年齢層の意見は教えてほしい。
- ⇒検証（案）については、アンケートの一部抽出部分を掲載させていただいています。年齢層ごとの回答については、アンケート集計結果報告書の 48 ページを参照してください。
- ・いろいろな活動をさせていただいているが、合併をしたおかげでこれまでの市町村をまたいだ交流ができるようになった。旧伊勢市の中でも宮川など地形的に区切られていた感があった。図書館などの施設の利用幅も広がった。すごくよくなったと思う。
  - ・近隣 8 市町による定住自立圏の取り組みや、伊勢志摩サミットなど、今後少子高齢化が進む中で広域的な取り組みは必要だと思うが、将来は「伊勢志摩・20 万人都市」といった考えはあるのか。
- ⇒先般、市議会でも同じような質疑がありましたが、現在、伊勢市は定住自立圏の取り組みを確実なものにしたいと考えています。
- ・【検証案 22 ページ】「合併時に想定された課題」で「②中心部だけよくなり周辺地域がさびれる」とあるが、10 年が経過し、実情を見ると、新伊勢市の人口減は、旧伊勢市の人口減によるものであり、人が郊外へ流れているのがわかる。今後は、それぞれの地域だけで考えるのではなく、市全体の視点で新たな課題についても考えていかなければならない。
- ⇒合併後 10 年が経過し、まちの課題等も変わりつつありますので、検証等は今後の行政運営にいかしていきます。
- ・「今後も住みたいか」のアンケートの回答で「住みたい」が 8 割とあったが、高齢者の回答が多いので、実情は「住み続けるしかない」のでは。やはり若い層が「住みたい」と思うまちづくりが今後必要になってくる。
  - ・地元大学生が地元で就職したいと思う企業の育成、誘致をお願いしたい。
  - ・少子化で高校の定員なども減少傾向にあると聞く。「伊勢に暮らしたい」子どもを増やす取り組みが今後必要である。
- ⇒アンケート集計結果報告書の 45 ページに世代別の回答がありますが、今後の人口減少を止めるためにも「若い世代」が住みたいと思っていただくまちづくりに努めていきます。
- ・合併の効果にある農産物のブランド化は非常に面白いと思う。是非推進してもらいたい。

以 上